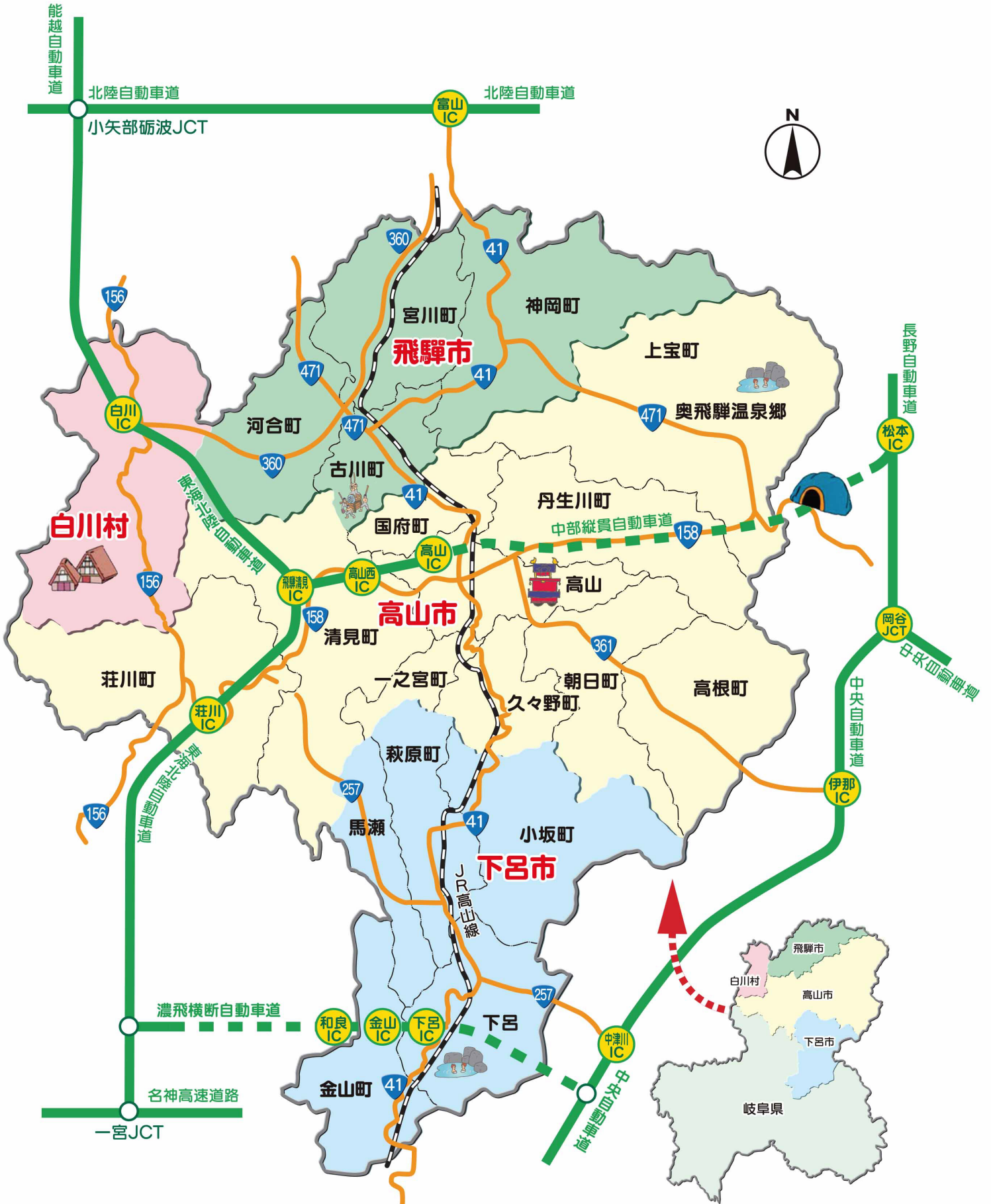


令和4年版

高山市の農業



高山市農政部農務課
高山市農業経営改善支援センター連絡会



位置・気象条件

位置と面積

高山市は岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、平成17年2月1日に周辺9町村と合併し日本一面積の大きい市となった。

中部圏と北陸圏を結ぶJR東海高山本線や国道41号と福井県福井市から長野県松本市を結ぶ国道158号の交差点にあり、名古屋市から162km、岐阜市から136km、富山市から88km、松本市から92kmの地点にある。

自動車道は東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道や安房峠道路、権兵衛峠道路等により高速道路に連結し、大阪から約4時間、東京へ約5時間、金沢、名古屋へ約2時間でアクセスできる。

標高は3,190m（奥穂高岳）から436m（上宝町吉野）まで急峻な地形が多く山林が全面積の約92%を占める。

- ・面積 東西約81km 南北約55km 2,177.61平方km
- ・高山市役所本庁舎の位置 東経137度16分 北緯36度09分 海拔573m

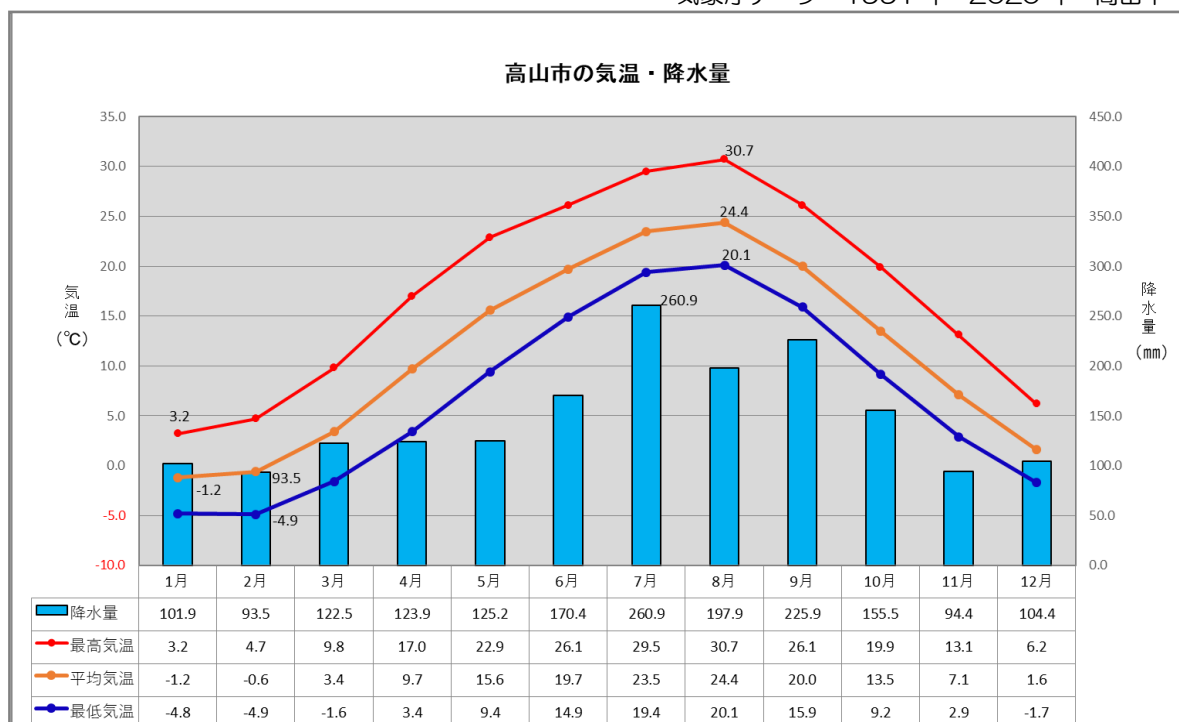
気象条件

内陸性気候で寒暖の差が大きく、特に夜間の冷え込みが厳しい。

年間平均気温 11.4℃ 年間降水量 1,776.5mm

夏日（最高25℃以上）年間110.5日 冬日（最低0℃以下）年間112.5日

気象庁データ 1991年～2020年 高山平年値



農家

農家戸数

高山市における販売農家の割合は56%、自給的農家は44%となっている。

総農家数	販売農家	自給的農家
3,569 戸	1,992 戸	1,577 戸

2020 農林業センサスより
(※専業別農家数は公表なし)

注) 販売農家とは… 経営耕地面積 30a 以上または農産物販売金額が年間 50 万円以上の農家
自給的農家とは… 経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が年間 50 万円未満の農家

【参考】

総農家数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	自給的農家
4,112 戸	533 戸	388 戸	1,521 戸	1,670 戸

2015 年農林業センサスより

認定農業者

高山市では平成7年度から農業経営改善計画の認定を進めており、認定農業者数は539経営体（令和4年4月現在、内法人88経営体）となり、岐阜県内で一番多い。

これら認定農業者の経営改善を進めるため高山市農業経営改善支援センターを設置し、効率的かつ安定的な農業経営の支援を行っている。

就農研修・新規就農者

高山市では平成21年度より「就農移住支援ネットワーク会議」を設置し、就農移住を推進しており、農業を目指す方の就農相談から就農研修、就農後のサポートまで総合的な支援を行っている。

【就農研修者】

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
就農研修者	17	17	14	13	12	10	8	7	8	4
(内移住研修者)	6	7	6	5	3	3	2	2	3	2

【新規就農者】

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
新規就農者	20	27	38	17	28	33	25	26	33	18
(内移住就農者)	5	2	5	2	4	3	1	3	0	4

農地

耕地面積

高山市の耕地面積は 4,560 ハクタールで、その 66.4%が田である。
一戸当たり平均耕地面積は約 1.3 ハクタールである。

田	3,030 ハクタール
畑	1,530 ハクタール
合計	4,560 ハクタール

東海農政局令和3年度耕地面積及び農作物市町村別統計

中山間地域等直接支払事業

高山市では 94 協定が締結され、1,241 ハクタールの農地が対象になっている。
各集落では、農業・農村の持つ多面的機能を発揮させるため、棚田の保存、
地域環境の美化、昆虫類の保護などの活動を行っている。



多面的機能支払交付金事業

高山市では 74 地域で協定が締結され、2,902 ハクタールの農地が対象になっている。
各集落では、地域住民が一体となって農村地域の資源（農地・農業用水・
ため池等）を保全（長寿命化）するための共同活動などを行っている。

農業生産

高山市の農業生産は、年間 200 億円を超える販売額があり、日本一の生産量を誇る「飛騨ほうれんそう」を始め「飛騨トマト」など共同出荷される高冷地野菜が、令和3年生産販売額の 46.2% を占める。

また「飛騨牛」として全国ブランドとなった肉用牛を始めとした畜産が占める割合は約 43.5%、米は 6.1% である。

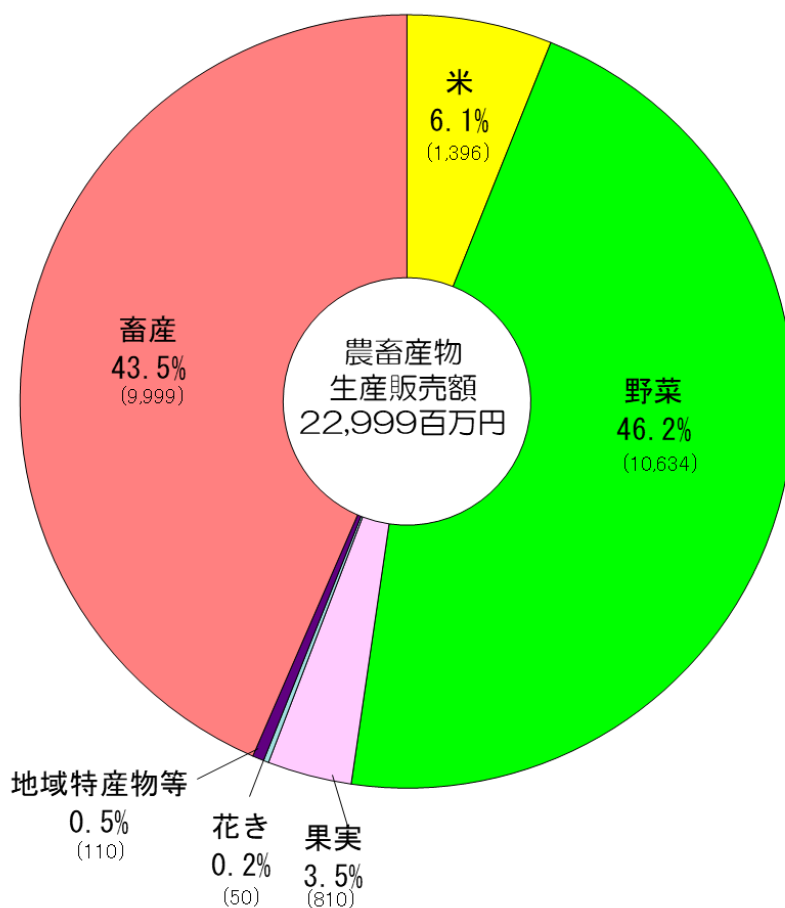
令和3年高山市の農畜産物生産販売額

(単位：百万円)

合計	米	野菜	果実	花き	地域特産物等	畜産
22,999	1,396	10,634	810	50	110	9,999

注) ・野菜…ほうれんそう、トマト、菌床しいたけ、その他野菜 ・畜産…肉用牛、乳用牛、養豚、養鶏
 ・地域特産物…そば、宿禰かぼちゃ、タカネコーン、えごま、山椒など

高山市農政部調べ



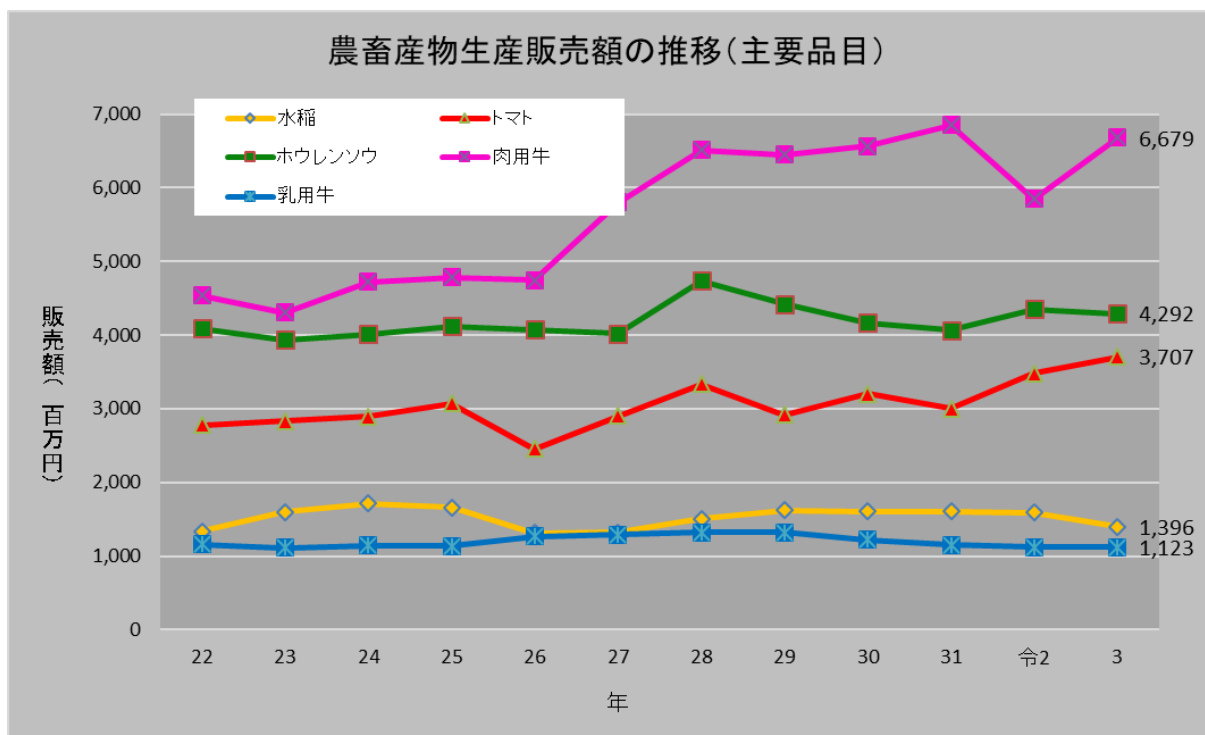
高山市の農畜産物生産販売額の推移(主要品目)

(単位：百万円)

品目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
水稲	1,339	1,602	1,715	1,664	1,318	1,323	1,505	1,625	1,607	1,605	1,590	1,396
トマト	2,783	2,832	2,893	3,076	2,452	2,905	3,336	2,917	3,200	3,001	3,480	3,707
ハウレンソウ	4,092	3,938	4,009	4,123	4,073	4,019	4,738	4,425	4,167	4,069	4,355	4,292
肉用牛	4,538	4,306	4,721	4,782	4,742	5,799	6,510	6,452	6,563	6,849	5,844	6,679
乳用牛	1,161	1,115	1,146	1,135	1,270	1,291	1,319	1,322	1,222	1,153	1,123	1,123

高山市農政部調べ

※トマト、ハウレンソウは JA 共同出荷額



ホウレンソウ

産地の特徴

高山市では、高冷地の冷涼な気象条件を利用し、春から秋にかけて飛騨ほうれんそうの栽培が盛んである。

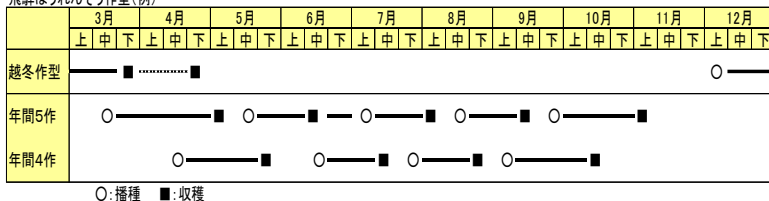
飛騨ほうれんそうの栽培は昭和40年頃から本格的に始まり、その後当地で開発された雨除け施設栽培（ビニールハウス）による技術の普及と水田転作によりその栽培面積が拡大しており、令和2年においては延べ面積で約917㌥栽培されている。

夏場は生育期間が1ヶ月ほどと短く年間5連作も可能であり、4月から11月まで連続して京阪神市場を中心に中京市場、京浜市場へ出荷されている。

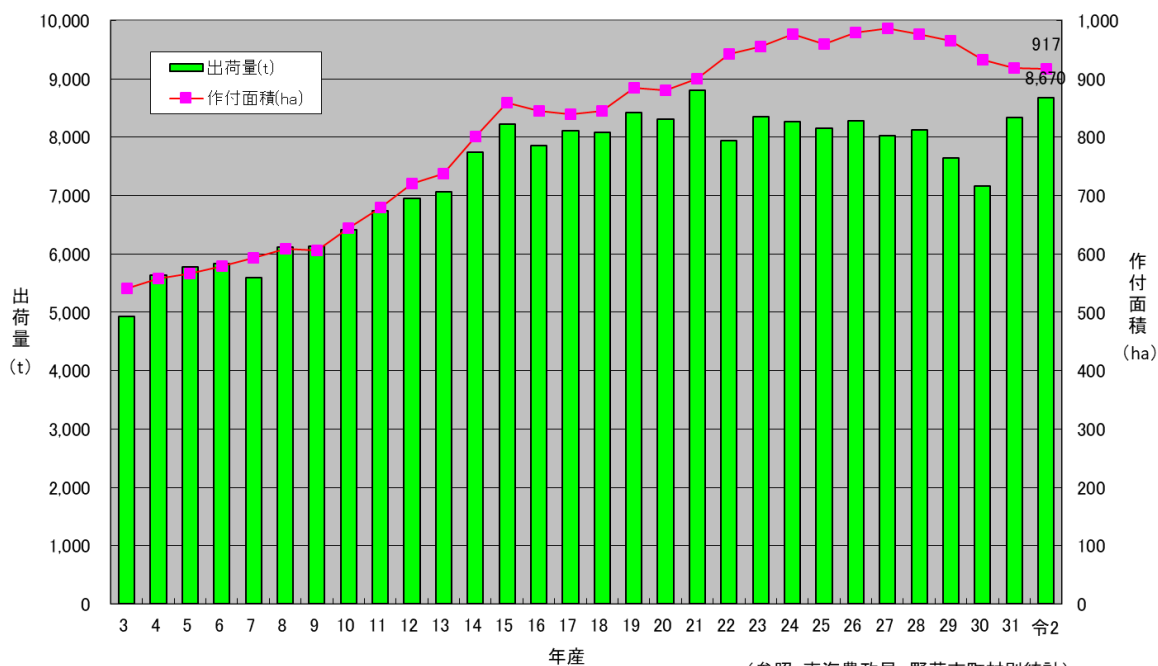
平成15年度からは化学肥料と化学合成農薬をそれぞれ従来より30%以上削減した栽培体系・ぎふクリーン農業(<https://www.gifu-cal.or.jp>)を取り入れている。

飛騨ほうれんそうの年間の栽培体系

飛騨ほうれんそう作型(例)



年産別ホウレンソウの生産推移



(参照: 東海農政局 野菜市町村別統計)

トマト

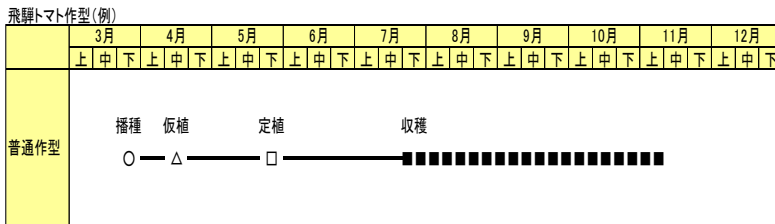
産地の特徴

高冷地の自然条件を活かした雨除け施設栽培により、飛騨トマト 124 ㍍が栽培され7月から11月まで出荷が行われている。栽培体系の統一と共同選果場の設置により品質の向上と均一化を図り、京阪神市場を中心に中京市場、京浜市場へ出荷され、飛騨地域全域での共同販売・共同計算を行っている。

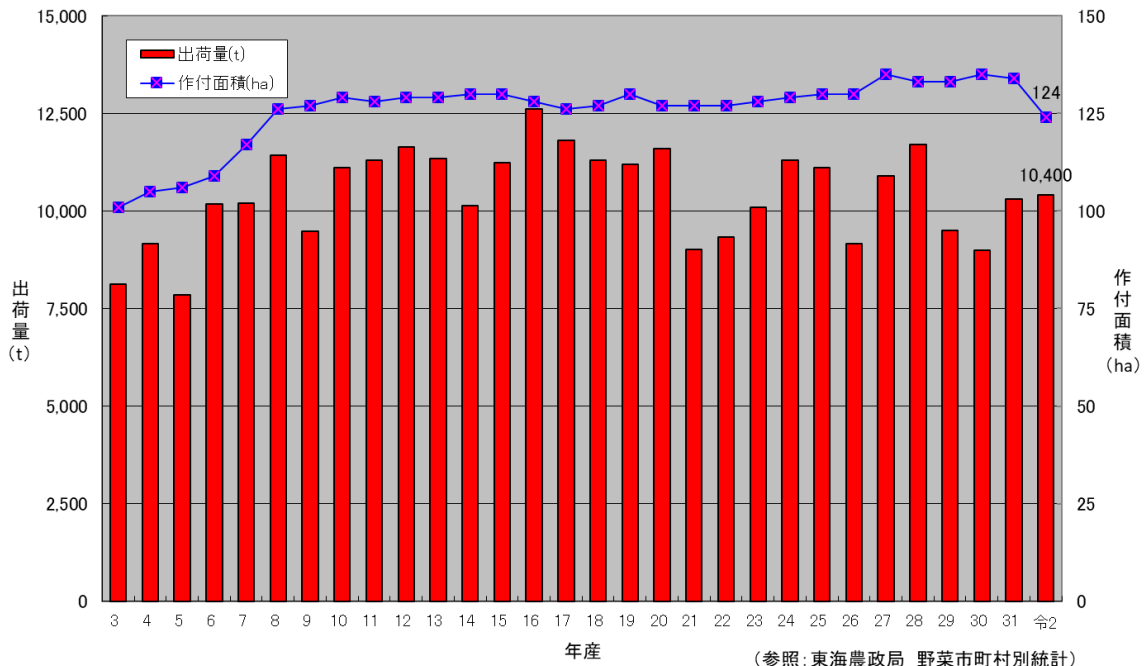
また、安全で安心なトマト栽培への取り組みとして、ビニールハウスの周囲に防虫ネットを張り農薬の散布回数を減らすとともに、有機質肥料を使用して栽培している。

平成14年度からは化学肥料と化学合成農薬をそれぞれ従来より30%以上削減した栽培体系・ぎふクリーン農業(<https://www.gifu-cal.or.jp>)を取り入れている。また、共同選果場においては、出荷者ごとに毎日抜き取り1週間保存するなど安全、安心な生産に努めている。

飛騨トマトの栽培体系



年産別トマトの生産推移



水稻

産地の特徴

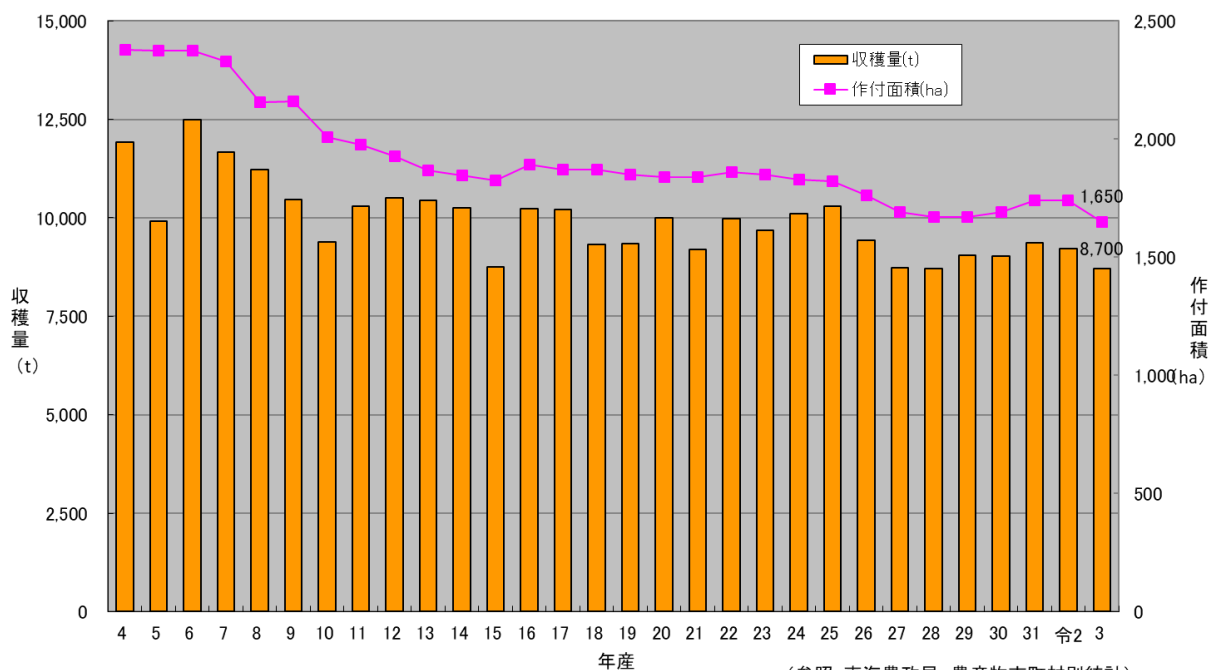
水稻は約 1,650 ㌧を作付している。

主食用のうるち米として食味の良い「飛騨コシヒカリ」を中心に「飛騨ひとめぼれ」のほか、もち米の「たかやまもち」、酒米の「ひだほまれ」などを栽培している。

米の食味の良さは全国コンクールなどでも高く評価され、平成25年から「飛騨高山おいしいお米プロジェクト」を立ち上げ、食味の良い米の生産と観光との連携による「飛騨米」のブランド化を推進している。



年産別水稻の生産推移



(参照: 東海農政局 農産物市町村別統計)

肉用牛

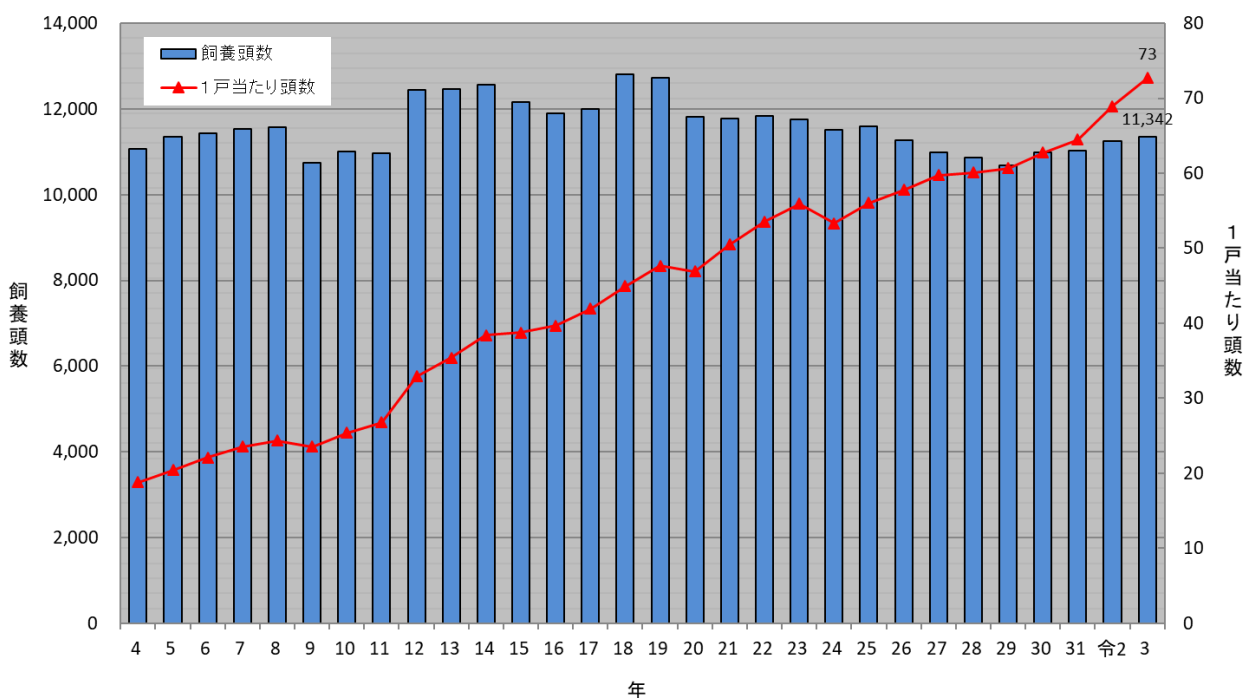
産地の特徴

高山市では、156戸の繁殖・肥育農家により11,342頭の肉用牛が飼育されている。子牛を生産する繁殖牛は、夏山冬里方式により春から秋の期間は自然環境豊かな牧場に放牧され、牛の健康増進と生産コスト低減が図られている。

「安福号」の系統を引き継いだ長年の種雄牛づくりと飼育技術の向上により、「飛騨牛」ブランドが確立されてきた。食肉センターで処理加工された枝肉は、海外へも出荷されている。



年別の肉用牛飼養頭数の推移



乳用牛

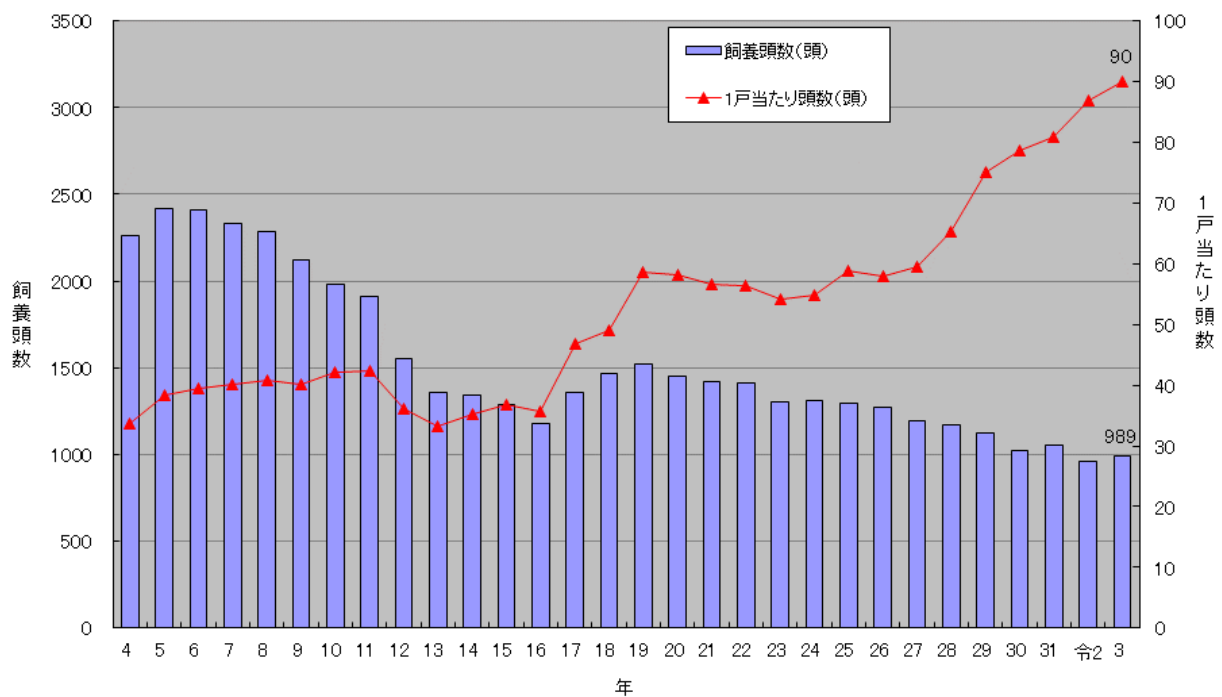
産地の特徴

高山市では、11戸の農家により989頭の乳牛が飼育され、年間約8,537トンの生乳が生産されている。

自然豊かな飛騨の地で生産された生乳は、その日のうちに処理加工され、新鮮な製品が消費者へ届けられている。



年別の乳用牛飼養頭数の推移



林業

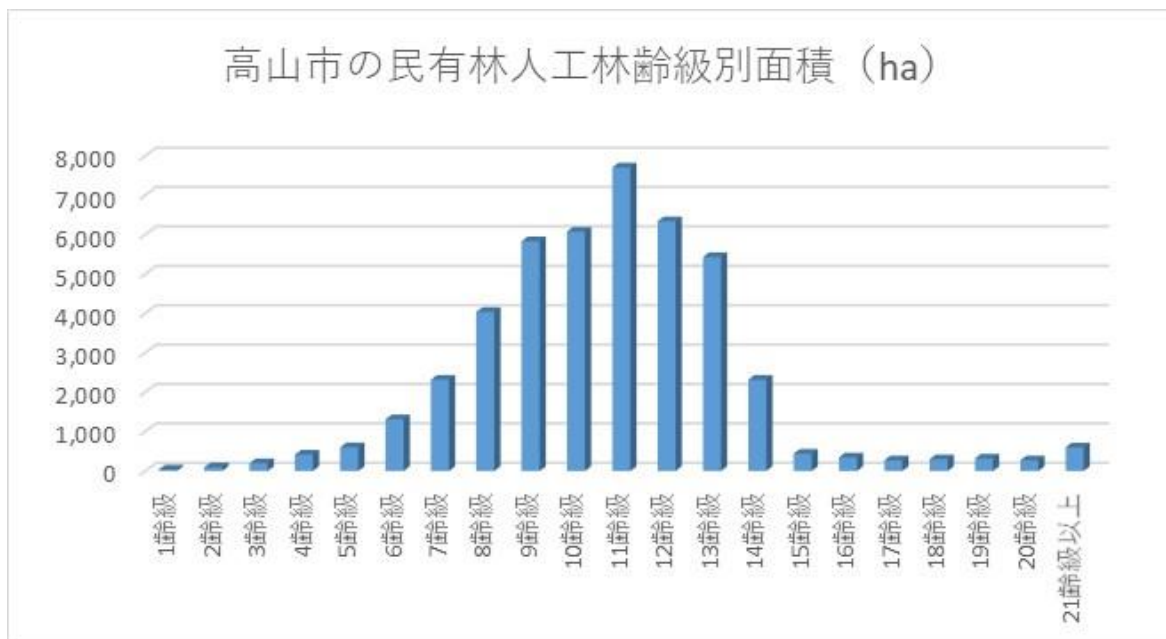
森林の現況

高山市の森林面積は 200,425ha で市域全体の 92.0%を占めている。このうち国有林は 80,667ha と市域森林の 40.2%を占めている。

民有林は 119,757ha で、そのうちスギやヒノキなどの人工林は 45,240ha と 37.8%を占めている。また、このうち間伐を必要とする林齢 11 年生～45 年生（3 齢級～9 齢級）の森林は 14,714ha と民有林人工林の 32.5%を占めており、適切な間伐の実施が課題となっている。

高山市の所有形態別の森林の面積(令和2年度版 岐阜県森林・林業統計書)

市域 面積 (ha)	森林面積				
	(ha)	国有林		民有林	
(ha)		(ha)	(ha)	うち人工林 (ha)	人工林率 (%)
217,761	200,425	80,667	119,757	45,240	37.8



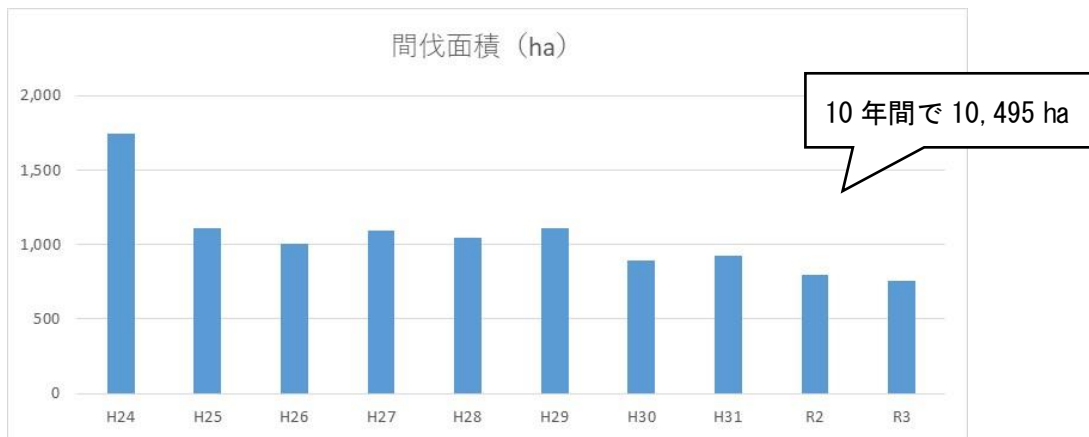
(令和2年度版 岐阜県森林・林業統計書「令和4年3月発行」より)

森林整備の状況

間伐及び間伐材の利用

平成 24 年度から令和 3 年度までの 10 年間の間伐実績は 10,495ha と、対象となる森林の約 71%となっている。令和 3 年度からは、災害に強い森林づくりを速やかに進めるために、手入れ不足の人工林の間伐を市が直接行う「重点区域森林整備事業」に取り組んでいる。

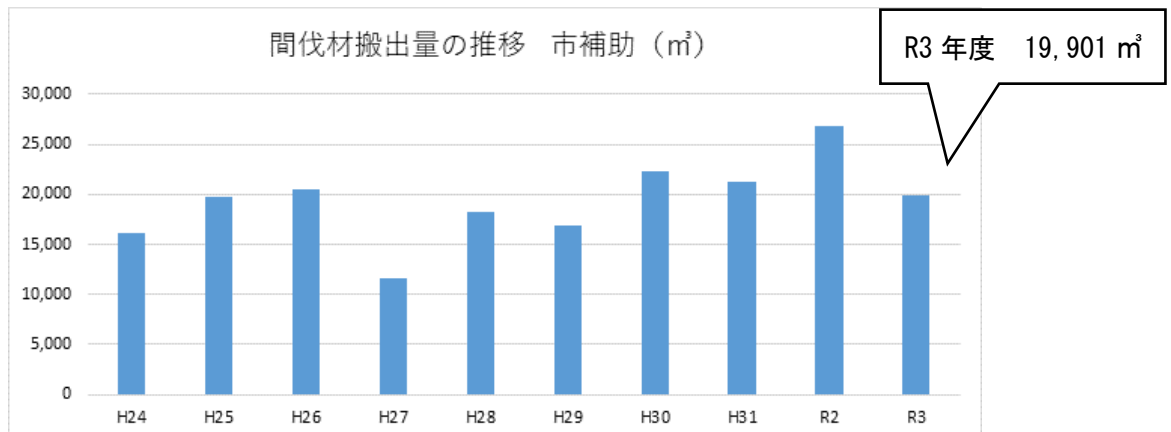
なお、間伐材が利用されず森林内に放置されることが多く、資源の有効利用の観点から間伐材の利用拡大が課題となっている。市補助事業（緑の保全事業）を活用した間伐材搬出量は令和 3 年度 19,901 m³となっている。



重点区域森林整備事業実施後



間伐材の搬出状況



地域特産物

飛騨紅かぶ

飛騨を代表する漬物「赤かぶ漬け」の原料として栽培されている。



飛騨ねぎ

寒い冬を越し1年間じっくりと育てられており、皮がやわらかくあまみがある。



きんしょう 菌床しいたけ

「飛騨やまっこ」の愛称で親しまれ、農家の冬場の仕事として栽培されている。



飛騨メロン

アールスメロン系のマスクメロンで、あまくてとてもおいしい。



あきしまささげ

まだら模様が特徴のインゲンマメの在来種で、夏まき秋どり栽培されている。



すくな 宿儺かぼちゃ

ヘチマに似た形をしたかぼちゃで、食味が良い。主に丹生川町で栽培されている。



夏ダイコン

高冷地の寒暖の差により、きめが細かくみずみずしい。



タカネコーン

高根町の高原で栽培されるトウモロコシで、とてもあまくておいしい。



飛騨りんご

涼しい気候を利用して栽培されており糖度が高く好評である。



飛騨もも

寒暖の差により糖度が高くておいしく日もちも良い。



山ブドウ

山奥に自生していた山ブドウを採取し畑で栽培している。収穫された山ブドウはワインやジュース等に加工されている。



トルコギキョウ

「飛騨の雪姫」は、良質な白いトルコギキョウで、秋にすばらしい八重咲きとなる。



キク

夏の中輪キクが中心で、特に「ひたこがね飛騨黄金」は市場での評価が高い。



たかはらさんしょう 高原山椒

香辛料の材料として上宝・奥飛騨温泉郷地域で栽培され、その香りと品質は高く評価されている。



そば

高冷地の特質を生かして栽培され質が良く「飛騨そば」として賞味されている。



えごま (あぶらえ)

五平餅のたれなどに利用され、飛騨地域の伝統食として欠かせない食材である。



× 毛

Handwriting practice lines consisting of 18 horizontal dashed lines.

高山市農政部農務課

〒506-8555

岐阜県高山市花岡町 2 丁目 18 番地

TEL(0577)35-3141 FAX(0577)35-3166
